

第2節 夕田茶臼山古墳の墳丘盛土について（日紫喜 勝重）

はじめに

夕田茶臼山古墳では、墳丘盛土の土層観察を行った結果、新見地が見られたことから現在までの墳丘盛土の研究史を振り返ったうえで、今回の調査成果を踏まえ、墳丘盛土に関して考察を加えたい。

1. 墳丘築造技術研究の略史

古墳における遺構論を考える時、従前の研究においては墳丘築造論を中心に検討が行われてきた¹。近年の調査事例の増加により、墳丘土層のデータが蓄積されてきており、墳丘の構築技術を検討することが可能となりつつある。今回の夕田茶臼山古墳の調査では、墳丘構築の良好な資料が得られた。この成果と各地の事例との対比から地域の墳丘築造技術の変遷を考えてみたい。

古墳の墳丘盛土の構築法に関する先学を紐解くと、土層断面の観察結果から様々な検討が加えられてきた。名古屋市に所在した前方後円墳である大須二子山古墳の調査では、田中氏が1953年に検討し、土層監察結果から墳丘構築過程の復元を行うなかで盛土の単位のひとつに小丘状の盛土の存在を示した²。1988年に刊行された丸山遺跡の発掘調査報告書³では、東日本の古墳の盛土に関し検討を行い、墳丘盛土は水平堆積のものばかりでなく、部分盛土後、水平堆積を行っているとし、A工法・B工法に分け分類を行った。その他、1997年に刊行された日上天王山古墳⁴の発掘調査報告書や2002年に刊行された玉手山古墳⁵の発掘調査報告書においても、墳丘土層観察結果から墳丘構築過程の復元が試みられている。

古墳時代の前段階の墓制である弥生時代の墳丘墓においては盛土の残存する事例が少ないこともあり、研究事例が少ないが東海地方の事例において2007年に宮腰氏が検討を行っている⁶。宮腰氏の研究によると廻間式期の弥生墳丘墓より、方台部の端部に土塁状の盛土を行い、その後凹んだ中央部に土を充填する工法の墳丘が出現するとした。

列島規模で古墳の築造技術の網羅的な検討を加えた事例として2003年に刊行された青木氏の古墳築造の研究⁷が挙げられる。網羅的な事例収集の中で、墳丘構築は地山面中央に小丘の造成を行い、その外側に積土を行い墳丘を構築するものと、地山面外側に土手状の盛土の造成を行い墳丘を構築するものの大きく2つに大別できるとし、前者を東日本的工法、後者を西日本的工法として類型化した。

これらの先行研究により、土層観察結果から構築方法が次第に明らかとなってきた。特に近年では、土層観察結果から墳丘構築過程の復元が行われており、その結果、工法に地域差が指摘されている。

2. 分析の方法

分析の対象として東海地域の廻間式期の弥生墳丘墓のなかで墳丘観察が行われた墳丘墓（表6）と3世紀の古墳で墳丘の土層観察の行われている事例（表7）を収集した。夕田茶臼山古墳との比較の中で検討を加えることとする。なお古墳の事例については、東海地域の廻間式期の古墳は墳丘盛土観察が少なく、4世紀と報告されるものも含め寺澤氏の提唱する纏向型前方後円墳⁸の集成を援用した。また、愛知県においては廻間式期の墳丘墓での土層観察事例が無いため、朝日遺跡における山中式期の墳丘墓1基のみを掲載した。

3. 考察

宮腰氏の論考⁶においても指摘されているが、表6からも見て取れるように東海地方の弥生時代の中期段階では墳丘墓の盛土は水平堆積盛土が基本であると考えられる。しかし、後期以降になると、方台部の端部に周堤状の盛土を行い、その後凹んだ中央部に土を充填する工法が出現することが窺える。岐

表6 東海地方の墳丘盛土一覧（墳丘盛土観察が確認できたものののみ）

番号	遺跡名	墳丘墓名	所在地	盛土方法	時期
1	伊瀬栗地遺跡	墳丘墓	岐阜県美濃加茂市	水平積み	3世紀前半
2	山神古墳・桐野1号古墳	上野山神弥生墳丘墓	岐阜県可児市	周提状盛土積み	3世紀前半
3		上野桐野弥生墳丘墓	岐阜県可児市	周提状盛土積み	3世紀前半
4	金ヶ崎遺跡	SX01	岐阜県可児郡御嵩町	周提状盛土積み	3世紀中頃か後半
5		SX02	岐阜県可児郡御嵩町	周提状盛土積み	3世紀後半
6		SX03	岐阜県可児郡御嵩町	周提状盛土積み	3世紀中頃か後半
7		SX05	岐阜県可児郡御嵩町	周提状盛土積み	3世紀中頃か後半
8	朝日遺跡	SZ159	愛知県清須市	ブロック積み	1世紀後半
9	平手町遺跡	SZ09	愛知県名古屋	水平積み	1世紀前半
10		方形周溝墓1	愛知県名古屋	水平積み	1世紀前半
11		方形周溝墓2	愛知県名古屋	水平積み	1世紀前半
12	金塚遺跡	金塚2号墳丘墓	三重県四日市市	周提状盛土積み	2世紀後半
13	倉谷遺跡	1号墓	三重県津市	周提状盛土積み	1世紀前半
14	大城遺跡	3号墓	三重県津市	周提状盛土積み	2世紀末から3世紀前半
15		4号墓	三重県津市	周提状盛土積み	2世紀末から3世紀前半
16		5号墓	三重県津市	不明(一部残存)	2世紀末3世紀初め
17		6号墓	三重県津市	周提状盛土積み	3世紀前半
18		7号墓	三重県津市	周提状盛土積み	3世紀前半
19		9号墓	三重県津市	ブロック積み	2世紀前半
20	殿村遺跡	SX1	三重県津市	周提状盛土積み	3世紀前半
21	織糸遺跡	SX5	三重県多気郡明和町	周提状盛土積み	3世紀前半
22		SX6	三重県多気郡明和町	周提状盛土積み	3世紀前半
23		SX7	三重県多気郡明和町	周提状盛土積み	3世紀前半
24		SX8	三重県多気郡明和町	周提状盛土積み	3世紀前半

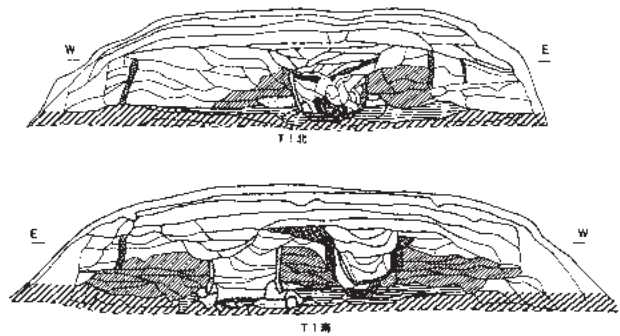
表7 前期古墳の墳丘盛土一覧（墳丘盛土観察が確認できたものののみ）

番号	古墳名	所在地	盛土方法	時期
1	稲荷森古墳	山形県南陽市	地山削り出し	4世紀後半
2	杵ヶ森古墳	福島県河沼郡会津坂下町	水平積み	4世紀前半
3	秋葉山3古墳	神奈川県海老名市	周提状盛土積み	3世紀後半
4	神明塚古墳	静岡県沼津市	水平積み	3世紀後半
5	高尾山古墳	静岡県沼津市	地山削り出し	3世紀中頃
6	宿東山2号墳	石川県羽咋郡宝達志水町	周提状盛土積み	4世紀前半
7	弘法山古墳	長野県松本市	地山削り出し	3世紀中頃
8	象鼻山1号墳	岐阜県養老郡養老町	周提状盛土積み	3世紀中頃
9	神郷亀塚古墳	滋賀県東近江市	周提状盛土積み	3世紀前半
10	纏向石塚古墳	奈良県桜井市	水平ブロック積み	3世紀中頃
11	ホケノ山古墳	奈良県桜井市	水平ブロック積み	3世紀中頃
12	見田大沢1号墳	奈良県宇陀市	水平ブロック積み	3世紀前半
13	大田南2号墳	京都府京丹後市	地山削り出し	3世紀後半
14	矢藤治山墳丘墓	岡山市	一部盛土	4世紀前半
15	才町・茶臼山古墳	広島県福山市	地山削り出し	3世紀中頃
16	歳ノ神墳墓	広島県山県郡北広島町	地山削り出し	3世紀中頃
17	平尾2号墳	香川県丸亀市	地山削り出し	3世紀前半
18	平尾3号墳	香川県丸亀市	地山削り出し	3世紀前半
19	平尾4号墳	香川県丸亀市	地山削り出し	3世紀前半
20	宮谷古墳	徳島県徳島市	地山削り出し	3世紀後半
21	妙見山1号墳	愛媛県今治市	一部盛土	3世紀後半
22	那珂八幡古墳	福岡県福岡市	一部周提状盛土積み	4世紀前半
23	光正寺古墳	福岡県糟屋郡宇美町	周提状盛土積み	3世紀中頃
24	萱葉2号墳	福岡県糟屋郡志免町	一部周提状盛土積み	4世紀後半
25	稲葉古墳	福岡県糸島市	一部周提状盛土積み	4世紀中頃
26	徳重本村2号墳	福岡県宗像市	一部周提状盛土積み	3世紀中頃
27	能満寺古墳	福岡県築上郡上毛町	周提状盛土積み	4世紀中頃
28	潤野3号墳	熊本県宇土市	水平積み	4世紀中頃

阜県下では廻間Ⅰ式期の伊瀬栗地遺跡⁹においては水平堆積であることが報告されている。一方、同じく廻間Ⅰ式期である上野桐野弥生墳丘墓及び上野山神弥生墳丘墓¹⁰においては、周堤状の盛土がみられた。廻間Ⅱ式期以降では、金ヶ崎遺跡¹¹ SX03 や SX05 においてこの工法が見られる。以上の点から、中濃地域においては廻間Ⅰ式期がこの技術の導入期であり、廻間Ⅱ式期が定着期と推測される。

古墳に関しては、時期を絞って表7から推測すると3世紀後半から4世紀かけて全国的に墳丘盛土の方法に地域差があり、いくつかのブロックに分かれるようである。東海・九州では周堤状盛土積みが主体と考えられるが、中国、四国、北近畿では地山削り出しが主流である。同じ近畿でも奈良県においては水平積みが見られ、東日本は長野県弘法山古墳¹²のような地山削り出し、水平積み、周堤状盛土積み が混在している。

夕田茶臼山古墳の周堤状盛土の起源については、弥生時代後期以来の東海地方の墳丘墓の構築方法の伝統の上に成り立っている事は十分に考えられる。この工法は地域の伝統的工法として夕田茶臼山古墳の埋葬部構築にも引き継がれている可能性が高い。周堤状盛土については青木氏が西日本的工法として分類しているが、詳細をみれば夕田茶臼山古墳のように埋葬部においてみられるものと、墳丘盛土においてみられるものの2者があるよう



第36図 神郷亀塚古墳断面図 (S=1/120)

に思われる。この違いは今後検討する必要がある。夕田茶臼山古墳と同様に埋葬部に周堤状の盛土を行う工法が見られたのは、周辺地域では滋賀県神郷亀塚古墳¹³のみであった。後者については岐阜県養老町象鼻山1号古墳¹⁴において周堤状盛土が墳丘全体で行われており、その形状は大須二子山古墳に酷似する。

次に夕田茶臼山古墳の重要な特徴は地山削平を行い基盤造成のため水平盛土を行う工法である。地山削平に関しては、岐阜県下で時期の下る象鼻山1号墳や愛知県犬山市の東之宮古墳でも確認されている。この2例は夕田茶臼山古墳の地山削平よりもさらに大規模になるが、同様の築造工法の連続性が認められる点で興味深い。

夕田茶臼山古墳の築造工法の特徴は、墳丘全体では地山削平や基盤造成といった新しい要素と、埋葬部については弥生時代後期以来の東海地方の埋葬部構築の伝統的工法である周堤状盛土が見られる点である。地山削平や基盤造成のための水平盛土などの工法は、現段階においては東海地方で夕田茶臼山古墳が初現といえる。東海地方では時期が下って象鼻山1号墳や東之宮古墳などで、基盤造成のための地山削平後に水平盛土を行っている。基盤造成や地山削平という技術は東海地方ではそれまでに見られない工法であり新しい要素である。この技術は自然発生したものなのか。それとも他の地域から持ち込まれたものなのか。他の地域からの影響の可能性を考えるとすれば、表7から類推すると地山削平の技術については、地山削り出しを行う中国・四国・北近畿の影響の可能性を、象鼻山1号墳等の水平盛土については奈良県で見られる水平積みの工法の影響の可能性が挙げられる。周堤状盛土については、表7でも東海地方より離れた九州地方において多く見られるが、中四国、近畿では見られず、東日本で一部が見られる状況であるため他の地域的な繋がりはこの表からは読み取ることができない。

4. まとめ

以上の点から、夕田茶臼山古墳における墳丘構築には幾つかの要素が複合している可能性を指摘し、地域の伝統的な工法から繋がるものと新しい技術によるものがひとつの古墳で融和している可能性がある。夕田茶臼山古墳の技術が自然発生的であるのか、それとも他地域からの伝わった新しい技術であるのかを考えることで、夕田茶臼山古墳の意味づけが広がっていくだろう。これらの技術が、持ち込まれた技術とするならば、どの地域から持ち込まれたのか、またこの新しい技術を持った集団がどのように関わっていったのかも含め今後の検討課題である。

本稿作成にあたっては、本稿作成に快諾をいただいた富加町教育委員会の島田崇正氏に深く深謝いたします。その他、下記の方々にご指導、ご助力をいただきました。記して感謝いたします。

(敬称略)

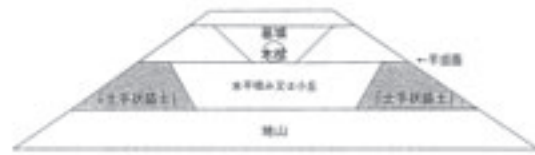
佐藤祐樹、鈴木とよ江、瀬尾正人、西森忠幸、濱田教靖、藤田英博、前田清彦

<註>

-
- *1 岸本直文 1992 「前方後円墳築造企画の系譜」『考古学研究』第39巻第2号
 - *2 田中 稔 1953 「前方後円墳の築造法—名古屋大須二子山古墳の場合—」『歴史評論』49 民主主義科学者評議会
 - *3 小野 昭・桑原陽一・富田和気ほか 1988 『丸山遺跡発掘調査報告書』大潟町教育委員会
 - *4 津山市教育委員会 1997 『日上天王山古墳』
 - *5 柏原市教育委員会 2002 『玉手山古墳群の研究Ⅱ』
 - *6 宮腰健司 2007 「伊勢湾周辺地域における方形周溝墓の埋葬施設」『（財）愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第8号
 - *7 青木 敬 2003 『古墳築造の研究—墳丘から見た古墳の地域性—』六一書房
 - *8 寺澤 薫 2011 『王権と都市の形成史論』吉川弘文館
 - *9 美濃加茂市教育委員会 1994 『伊瀬栗地遺跡発掘調査報告書』
 - *10 可児市教育委員会 2012 『山神古墳・桐野1号墳発掘調査報告書』
 - *11 (財) 岐阜県文化財保護センター 2003 『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』
 - *12 松本市教育委員会 1978 『長野県松本市弘法山古墳調査報告』
 - *13 能登川町教育委員会 2004 『神郷亀塚古墳』
 - *14 養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1997 『象鼻山1号古墳』



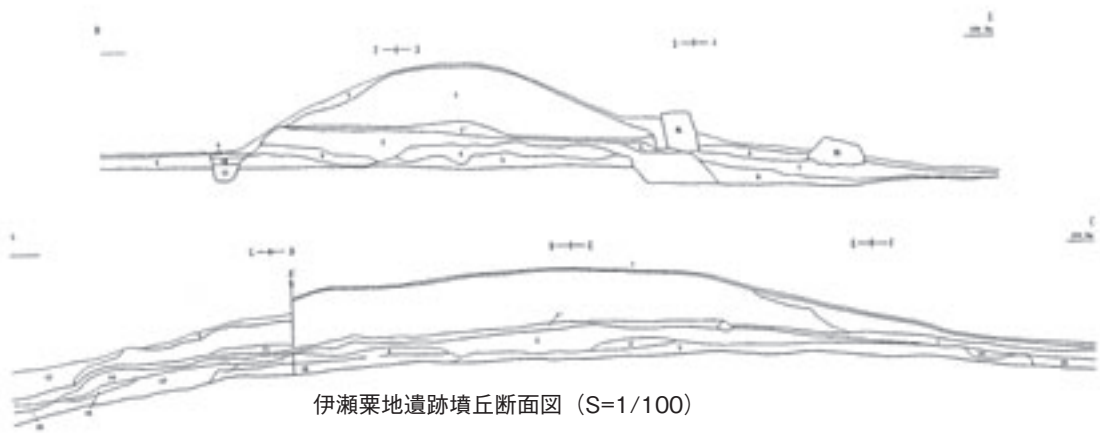
東日本の工法



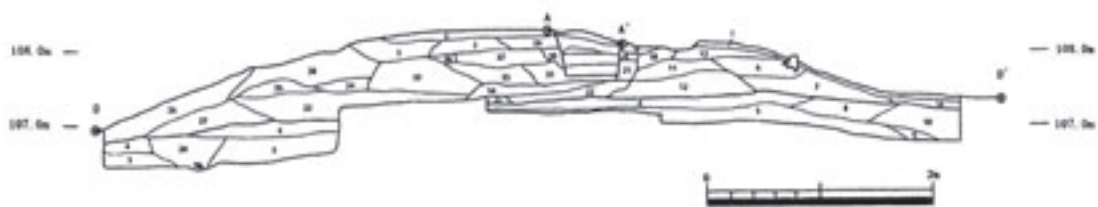
西日本の工法



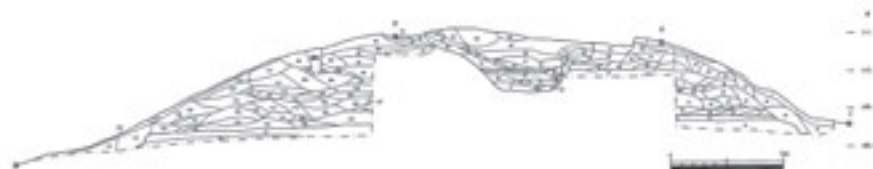
象鼻山1号古墳墳丘断面（縮尺任意）



伊瀬栗地遺跡墳丘断面図（S=1/100）



上野山神弥生墳丘墓断面図（S=1/100）

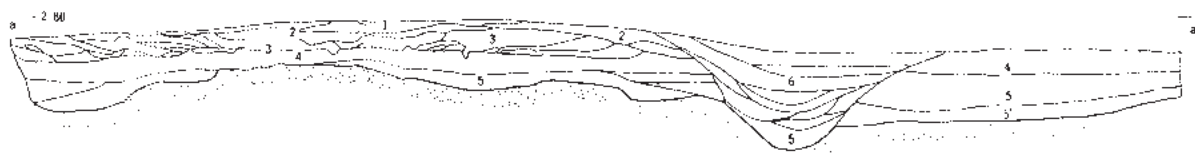


上野桐野弥生墳丘墓断面図（S=1/200）

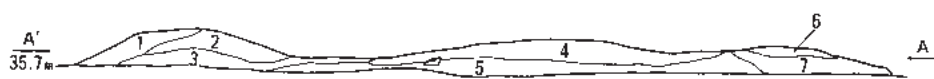


金ヶ崎遺跡 SX03 墳丘断面図（S=1/160）

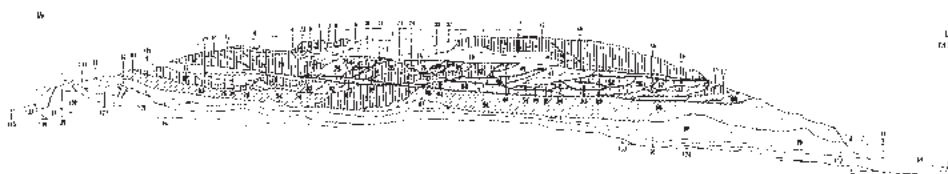
第 37 図 墳丘盛土の類例①



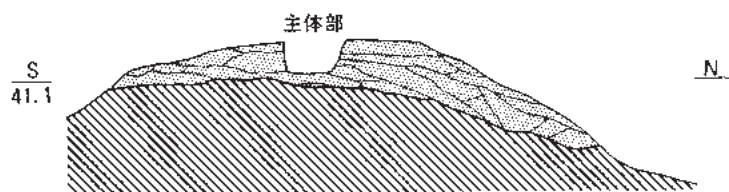
朝日遺跡 SZ159 墳丘断面図 (S=1/100)



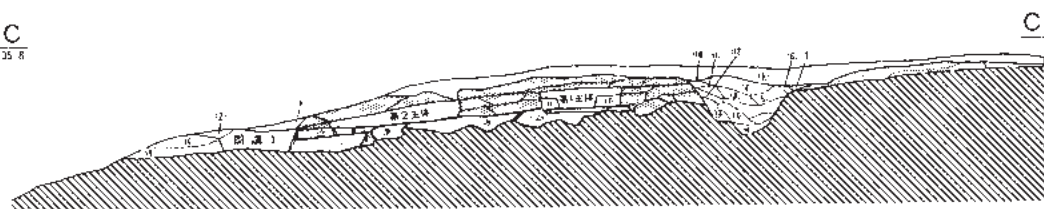
倉谷遺跡方形台状墓墳丘断面図 (S=1/40)



金塚遺跡金塚2号墳墳丘断面図 (S=1/200)



大城遺跡9号墳墳丘断面図 (S=1/100)



大城遺跡6号墓墳丘 (S=1/100)



織糸遺跡 SX6 墳丘断面図 (S=1/200)

第38図 墳丘盛土の類例②